

平成20年野球殿堂入り表彰式 ～感動と潮風～

事務局長 佐藤 宏

平成20年度の野球殿堂には、広島カープに入団後1年目からレギュラーとして活躍、昭和50年には広島を初優勝に導きMVPを獲得、また本塁打王を通算4回獲得するなど「ミスター赤ヘル」の愛称で親しまれた山本 浩二氏、巨人に入団後ルーキーで開幕から13連勝を達成し新人王を獲得、その後も速球と大きく落ちるカーブを武器に最多勝やMVPを獲得するなど、巨人をリーグ優勝・日本一に導く活躍をされた堀内 恒夫氏のお二人が、競技者表彰委員会から選出されました。

表彰式は8月1日(金)横浜スタジアムで行われたオールスター第2戦で、多くのファンや出場選手全員が見守るなか執り行われました。首都圏ではここ数日雷雨に見舞われる日が多く、当日の空模様が心配でしたが、午後になって雲も切れ、心地よいシーブリーズがそよぐなかで、表彰式を迎えることができました。

今回は開会式のなかで表彰式を行いました。試合前、両軍の選手・監督・コーチが場内アナウンスに従って整列した後、スクリーンで顕彰者の現役時代の勇姿が紹介されるなか、お二人が登場されました。その後(財)野球体育博物館・根来 泰周理事長から、山本氏、堀内氏にそれぞれ記念のレプリカが贈られました。引き続きプレゼンターとして殿堂入り先輩であり、かつての同僚・ライバルでもあった衣笠 祥雄氏(平成8年殿堂入り)から山本 浩二氏に花束が贈呈されました。また、かつてのチームメイトであり、投手としても大先輩の金田 正一氏(昭和63年殿堂入り)から堀内 恒夫氏に同様に花束が贈呈されました。

顕彰者お二人を代表して山本氏は、入団当時から出場して活躍することが夢だったオールスター戦という晴れ舞台上で表彰していただき感激の極みです。われわれの今日の姿があるのは、球団、指導者、同僚、ライバルそして何よりファンの皆さんのおかげであることを強調され、表彰式は無事終了しました。

なお、もうお一方の顕彰者、特別表彰の故・嶋 清一氏については、甲子園球場で開催される第90回全国高等学校野球選手権記念大会のなかで表彰式を行います。(8月15日の予定です)



左から 衣笠 祥雄氏、山本 浩二氏、堀内 恒夫氏、金田 正一氏



2008年 夏休み情報

1. 特別展「野球とオリンピック展」～がんばれ！星野JAPAN～

会期 ▶ ～9月28日(日) 会場 ▶ 企画展示室

協力 ▶ 財団法人日本オリンピック委員会、全日本野球会議

オリンピック北京大会の野球競技が、8月13日より開催されます。当博物館ではこれを記念して特別展「野球とオリンピック展」を開催し、ご来館のお客様とともに野球日本代表の活躍を応援したいと思います。



左：アテネ大会 銅メダル（宮本慎也選手提供※8月31日までの期間限定特別展示）とアテネ大会 日本代表選手サインボール
右：星野仙一監督 北京大会アジア予選着用（左） 宮本慎也選手 アテネ大会着用（右）ユニホーム

過去に日本代表が獲得したメダルや歴代ユニホームなどの実物展示のほか、オリンピックにおける野球競技の歴史、各大会での日本代表の戦績、北京大会日本代表の紹介、結果速報なども行ないます。

2. 「平成20年 野球殿堂入り特別展」

会期 ▶ ～9月28日(日) 会場 ▶ 野球殿堂ホール

今年殿堂入りをされた山本 浩二氏、堀内 恒夫氏、嶋 清一氏の特別展を開催します。3氏にゆかりのある資料や写真をはじめ、経歴や記録などもご紹介します。

1. 「野球で自由研究！」

会期 ▶ ～8月31日(日)

野球には、歴史や用語、野球用具、野球場など自由研究のテーマになるものがたくさんあります。館内の展示や図書室の本などを使って調べたり、実物のバットやグラブなどに触って大きさや重さを実感しながら、楽しく自由研究ができるようスタッフがお手伝いします。



昨年の様子

2. 「バット製作実演」



昨年の様子

期日 ▶ 8月19日(火)、20日(水)

時間 ▶ 11:00～12:00、13:30～14:30、15:00～16:00 予定

協力 ▶ ミズノ株式会社

今年で5年目となる夏休み恒例、バット削りの実演を開催します。ミズノ株式会社のご協力により同社のクラフトマンによるバット製作の実演に加え、バットにまつわるいろいろな質問にもお答えします。自由研究にも活用できるイベントです！

3. 「夏休み親子グラブ製作教室」

日時 ▶ 8月21日(木) 13:00～15:00 予定

今年も、ミズノのスタッフ指導のもと、親子で軟式少年用グラブの製作（おもにひも通し）をするイベントを行います。

（*参加者の募集は終了しましたが、グラブ製作のようすは見学できます。）



殿堂入りの人々を語る (20)

父の思い出

島田 章平 (島田 善介氏 次男)



1969年殿堂入り
島田 善介氏レリーフ

私の父・島田 善介は明治21年生れで、明治末期から大正にかけて野球選手として活躍したのですが、何分古い話なのでご存知ない方が多いと思いますので、まずどんな活躍をしたかを最初にお話ししたいと思います。

父は明治の終わり頃、我が国の野球の草創期に慶応義塾に学び、野球部で活躍しました。明治39年秋の早慶戦に初めて捕手として出場するのですが、実は此の早慶戦はいわくつきで、3回戦の予定が応援団の過熱騒ぎで3回目は中止となり、以後早慶戦は19年間も開催される事はありませんでした。その

後父は慶大野球部の明治41年のハワイ、同44年の米本土遠征に参加し、学校卒業後は社会人として三田クラブと言う慶大のOBチームで活躍しました。特に大正11年に来日した全米オールスターチームと三田クラブの試合で父がホームランを放ち、これが日本の野球史に輝く一打となり、唯一全米軍に勝った試合となりました。現役引退後は日本学生野球協会の役員等を通じ野球の発展に尽力しました。昭和44年には、野球功労者として殿堂入りとなりました。

さて、私と父とは年が40才離れておりましたので、私が物心ついた頃には父は現役から引退しておりました。従って私は父の現役時代の雄姿は知りません。そしてこの頃から日本は戦争へ向かってまっしぐらに進む時代となっていきます。しかし、そうした混乱期ではありましたが、父は余暇を見つけてはスポーツを楽しむ姿勢に変わりはありませんでした。その頃父は野球からゴルフに変わり、相模カントリークラブの設立メンバーに加わり、休日にはよくプレーに出掛けました。そして健康に良いからと兄と私をよくゴルフ場に連れていってくれました。当時のゴルフ場は、本当の意味でのカントリークラブと言う雰囲気、その印象は今でも強く残っております。兄と私は父のプレー中、練習場でボールを打って遊んだり、また父のプレーについて廻ったりしました。何よりも楽しみは帰路に小田急線の新原町田駅で降りて寄る豚鍋屋でした。あの辺は高座豚の産地で、これを味噌で煮る鍋料理は大変おいしかった。当時食糧事情も悪くなっていたので、特にそう感じたのかも知れません。父は会社経営のかたわら、野球界の世話役等多忙だったようで一年中殆ど家で食事を一緒にする事はありませんでした。従ってたまに外で父と食事することは、大変な楽しみでした。父はお酒は余り飲まなかったが、食べる事は大好きでした。昭和16年頃、母校慶応の野球部は部長・監督が応召で不在となり、父はOBの一人として臨時のコーチを引受けていました。日米開戦の前夜の頃です。父は宇野キャプテン・大館・阪井・大島・別当等、当時慶大の誇るスタープレーヤー達を自宅に招き、スキ焼会をしました。その時の選手達の健啖振りにはビックリしましたが、食糧事情の悪い当時、肉を買うのに母は大変苦勞した様です。平和でスポーツを楽しめる時代もこの頃で終わりとなり、やがて日米開戦となり、我が家も空襲で焼失し、一家もバラバラで生活する事になりました。戦後の混乱期を乗り越え、東京で一家が一緒に暮らせる様になったのは昭和29年ですが、父はその時既に病を得て、翌30年1月には他界しました。67歳でした。東京で家を建てたばかりで、これからという時で無念だったと思います。父は野球の全盛時代キャッチャーとして活躍しましたが、大変強肩だったようで、二塁ベースへはホップしていくような球が投げられたとよく自慢しておりました。明治44年の米国遠征の折、その技量から米国のプロ野球に参加しないかと言われたが、とても体力的にかなわないと考え断ったという話を聞いております。戦争中、あんな国と戦争して勝てる訳がないとよく言っていたのを覚えています。明治末期に渡米して米国の底力を痛感していたからでしょう。父の晩年は、戦後の苦勞の多い時代となりましたが、若い時代、明治から昭和の始め頃までは結構スポーツを通じて華やかで充実した人生を送ったのではないかと考えております。



知ってほしいこんな資料(63)

野球とオリンピックの隠れた歴史を伝える2冊
 『Spalding's Official Baseball Guide, 1901』(復刻版)
 『伯林大会報告書』(1937年 大日本体育協会発行)



今回は、野球とオリンピックに関わる“知ってほしいこんな情報”が掲載されている当館所蔵の本を2冊ご紹介します。

①1900年パリ万博の野球競技(『Spalding's Official Baseball Guide, 1901』)

昨年、秩父宮記念スポーツ博物館の職員の方からパリ万博の野球競技がどんなものだったかについて問い合わせがありました。

パリ万博の期間中に、関連行事として実に様々なスポーツや文化のイベントが開催され、そのなかで、当初はクーベルタン男爵が運営にかかわった陸上競技のみをオリンピック競技としていたそうですが、現在で

は国際オリンピック委員会 (IOC) がオリンピックの理念に近い形で運営された19競技 (95種目) をパリ大会のオリンピック競技として認めており、会期は5月14日から10月28日まで5カ月以上にわたり、現在のオリンピックとはかなり違う形のオリンピックだったそうです。野球競技はオリンピック競技にはもちろん入ってはいませんが、パリ万博のイベントの一つとして行われているとのことでした。

いろいろ調べたところ当館所蔵の『Spalding's Official Baseball Guide, 1901』(復刻版) に、パリからの手紙という形でパリ万博の野球試合の様子がでていました。

それによると、そのころパリには留学生や万博関係の米国人による野球チームが5つあり、1900年のリーグ戦はガード(万博の警備のため米国政府が選んだ米国の大学生60名のガードからの選抜チーム)が優勝。1900年9月20日に、このシーズンの最終試合として、優勝したガードチームと他の4チームからのピックアップチームが、パリ郊外のヴァンセンヌにあるペロドローム(自転車やサッカーなどオリンピック競技もここで開催されています)の中央の芝生にダイヤモンドを設置して、500人もの米国人の観客を集めて対戦しました。試合は19対9でガードが勝利し、パリ万博のオフィシャルアスレチック委員会からゴールドメダルを受賞したと書かれています。もちろんパリ大会のオリンピック19競技の中には入っていませんが、今から100年以上前の1900年の第2回大会のオリンピック競技と同じ時に、同じ場所で野球も行われていたわけです。

②1936年ベルリン大会の野球公開競技は日米対決が予定されていた。(『伯林大会報告書』)

ベルリン大会で野球が公開競技として行われ、オリンピックスタジアムに多くの観衆を集めて米国の2チームが試合をした事はご存知の方も多いと思います。しかし、この試合が当初は日本とアメリカの対戦として予定されていた事は、あまり知られていないと思います。以前からも、『世界アマチュア野球史』(カルロス・j・ガルシア著)の中で「米国は招待を受け入れたが、日本は最後の段階になって断った」と書かれているのは知っていましたが、今回、ベルリン大会の日本の公式報告書『伯林大会報告書(第11回オリンピック大会報告書)』(1937年大日本体育協会発行)のオリンピック準備委員会議事録の中で、1935年9月26日に「尚デモンストレーションとして8月12日午後7時より開催すべき予定の野球参加に就ては独逸委員に確約したる物に非らざる旨山本氏(当時の日本学生陸上競技連合会長 山本 忠興氏)より報告ありたり」という記述が見つかり、招待されていた事がより確かなものだったとわかりました。招待を断った経緯については、今後も調査を続けたいと思いますが、ベルリン大会は後援会を組織して寄付を募り、派遣費用を捻出していますので、正式な競技ではない公開競技に9人以上の選手を派遣するほどの財政的な余裕はなかったのではないのでしょうか。

学芸員 新 美和子



コラム／博覧・博楽 (27)



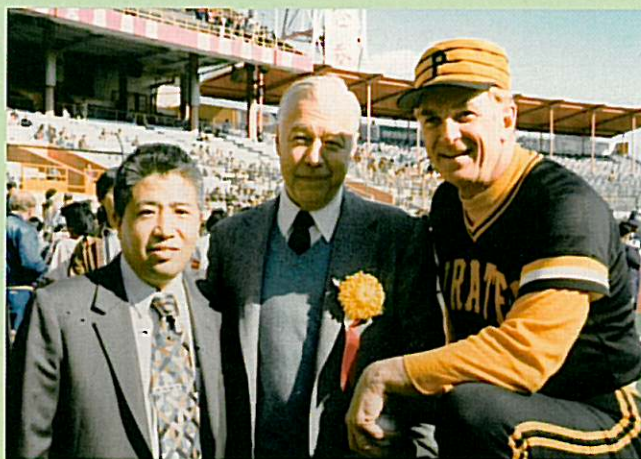
真の大リーグ通と呼ばれた歯科医の話 (1)

今里 聡 (今里 純氏 長男)

「大リーグ研究家の今里さん」と言ってもピンと来なくとも、「大リーグ通の西脇の歯科医」と言えば、『ああ、あの』とうなずかれる野球関係者の方もいらっしゃるのではなかろうか。5年前に他界した私の父 (今里 純) は、兵庫県西脇市の開業歯科医であったが、知る人ぞ知る「大リーグ通」として日米プロ野球の交流に貢献した人物であった。元阪神タイガース監督の吉田 義男氏が今年の6月20日付の日経新聞に書かれたコラムでも、「真の大リーグ通」と賞賛いただき、元パ・リーグ広報部長の故パンチョ伊東氏も一目置く存在であったと回顧して下さっている (なお、父が深く関わっていた時代は「大リーグ」と呼んでいたため、ここではあえてそう書かせていただくことをご容赦願いたい)。

そもそも、このような類稀なる素人が誕生したきっかけは、一風変わっている。英語と野球が大好きであった父は、歯科大の学生だった1946年頃から、進駐軍向けの短波ラジオ放送での大リーグ実況中継を余暇に聴き始めた。それも、ただ単に耳を傾けているのではなく、実況を聴きながらスコアブックに試合の全スコアを記帳するというかなり凝った趣味であった。ところが、用語については理解できるものの、アメリカの実況では、『打ちました、三塁ゴロ』ではなく、『打ちました、長島へのゴロ』といったように表現するため、選手の名前を知らないと打球が何処へいったか分からない。そこで、幾度となく直接手紙を書いて問い合わせ、メンバー表を送ってもらったりしているうちに、多くの球団関係者と親しくなり、やがて、非常に稀有な「大リーグに精通した日本人」として米国のコミッショナーにも認識される存在となった。大リーグ研究の趣味は歯科医になってからも続き、日本の昼の時間帯に放送がある時は、母が録音しておき、夜9時ごろに診療が終わった後それを聞いてスコアをつけることも常であった。当時そこまで大リーグに興味を持っていた日本人はほとんどいなかったため、アナウンサー仲間にも有名になり、試合の放送中に『Dr. Jun Imazato 聞いているか、一緒にコーヒーを飲もう』と話しかけられたという逸話が残っているほか、父が記録したスコアブックは、ニューヨーク郊外のクーパースタウンにある米国野球博物館に展示されるという栄にあずかった。

そういった経緯から、やがて父は、いろんな場面で日米のプロ野球界のパイプ役を依頼されるようになり、日本のコミッショナーからも相談を受けるようになった。例えば、1963年には、下交渉から世話をして阪神タイガースのフロリダキャンプを実現させ (日本チーム全体としての海外キャンプは始めて)、顧問兼通訳として同行した。また、大リーグチームの来日に際しては、診療所は放ったらかしでコミッショナー顧問として帯同し、日米の親善に貢献した (写真)。日本の野球体育博物館とのお付き合いも長きにわたり、折に触れ大リーグ資料の入手に協力したほか、1984年のボルティモア・オリオールズの来日時には選手のユニフォームを博物館に寄贈してもらった交渉役をつとめた。



1979年大リーグ選抜チーム来日時。

アメリカンリーグ会長のマクファイル氏 (中央) とピッツバーグ・パイレーツのタナー監督 (右) と。左端が父。

<次号につづく>



こんにちは図書室です



今年の夏の甲子園大会は90回記念大会で、代表校は昨年の49校から6校増えて55校で試合が行われます。そこで、今回は今までの5年毎の記念大会ではどんなことがあったか、などをご紹介します。

(参考文献:「全国高等学校野球選手権大会70年史」、「甲子園とともに」、各年の「アサヒ・スポーツ」、「ベースボール・マガジン」、「野球界」、「週刊ベースボール」、各スポーツ新聞など。これらの本・雑誌・新聞は図書室で閲覧できます。)

司書 小川 晶子

全国高等学校野球選手権大会記念大会のこんな話・あんな話

回	年	開幕日	優勝校	開会式(入場式)、試合などの特筆記事
1	1915	8・18	京都二中	まだ甲子園球場がなかった時代で豊中球場で開催された。始球式为村山龍平朝日新聞社長が羽織、はかま姿で行った。参加校は73校、本大会には10校が出場した。
5	1919	8・13	神戸一中	前年は米騒動で中止になったため、2年ぶりの全国大会となった。1917年の第3回大会から鳴尾球場で行われるようになった。
10	1924	8・13	広島商	甲子園球場がこの年の8月1日に竣工。入場式は昨年の優勝校・甲陽中学の芝生将を先頭に行われ、グラウンド上空では10機の飛行機が祝賀飛行を行った。
15	1929	8・13	広島商	一塁側と三塁側の内野スタンドと外野スタンドの間に特設スタンド建設した。登山家の藤本久三氏がこのスタンドを見て「これは偉大だ。まるでアルプスのごとく高く壮大である。」と驚き、漫画家の岡本一平氏が朝日新聞紙上に「スタンドの上には雪をいただき、アルプス山の如し」と書き、アルプススタンドと言われるようになった。
20	1934	8・13	呉港中	野球場前に20回大会を記念した野球塔が完成した。直径約35mの野外円形劇場に、高さが約34mで長方形の塔が建っていたが、戦時中供出され、現在は残っていない。
25	1939	8・13	海草中	海草中・嶋投手全5試合を完封。この5試合のうち、準決勝と決勝はノーヒット・ノーランという偉業を達成した。
30	1948	8・13	小倉	新学制で高校野球となる。学制改革を記念して大会歌「栄冠は君に輝く」が、全国からの募集によって制定された。
35	1953	8・13	松山商	初のテレビ放送。8月13日の入場式が放送され、連日実況中継があった。
40	1958	8・8	柳井	首里高校が沖縄から初めて甲子園に出場し47代表が甲子園と戦後の大会復活にゆかりのある西宮球場と併用した(併用は3回戦まで)。大正4年からの優勝旗が、生地の傷みがひどくなってきたので、40回記念大会を機会に優勝旗を新調した。大きさはタテ約105cm、ヨコ約152cmで深紅の緞織りに、金糸でラテン語の「VICTORIBUS PALMAE」と織り込まれている。
45	1963	8・9	明星	代表校は、47都道府県から1校と北海道を南北にわけて2校の合計48校。40回大会と同じように、前半は西宮球場も使用した。
50	1968	8・9	興国	皇太子ご夫妻(現在の天皇・皇后両陛下)をお迎えして開会式が行われた。45回大会と同じ48校が出場したが、参加校の要望もあり西宮は併用されなかった。入場行進に歴年の優勝校30校の校旗が入場。記念切手も発売された。
55	1973	8・8	広島商	大会を通じて約67万人余りの入場者を記録した。江川卓投手のいる作新学院対銚子商業戦は56,000人、決勝の広島商対静岡では58,000人の新記録を達成した。
60	1978	8・7	PL学園	この年から全都道府県から1校ずつ(北海道は南北、東京は東西の2校)が出場することになり49校に。また参加校が増え試合数も増えたので、健康管理上ベンチ入り的人数を14人から15人に増やした。
65	1983	8・8	PL学園	夏春夏の3季連続優勝がかかった池田高校だったが、準決勝で清原・桑田のいるPL学園に敗れた。
70	1988	8・8	広島商	浩宮様(現在の皇太子殿下)がマウンドから始球式を行った(この時のバッターは常総学院の仁志敏久選手(現・横浜ベイスターズ))。
75	1993	8・8	育英	雨で大会第3日の4試合が順延、第9日の第3試合、鹿児島商工対堀越戦で8回表の攻撃中に中断となり、そのままコールドゲームで鹿児島商工が3-0で勝利。第10日も予定の4試合を2試合にして行われたが、第2試合の常総学院対鹿児島商工は雨のため、4回表鹿児島商工4-0でリードしている時点でノーゲームとなった。翌日行われた試合で1対0で常総学院が勝利した。
80	1998	8・6	横浜	千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県、大阪府、兵庫県は2校ずつの出場となり、55代表となる。始球式は第1回大会優勝・京都二中の後継校のキャプテンが行った。この年、代表になれなかったが第1回から連続して地方大会に出場している15校の主将が、代表校の前を行進した。準決勝で、明德義塾の谷田和弥選手が打ったホームランが、大会通算900号となる。決勝では横浜の松坂大輔選手がノーヒットノーランを達成した。
85	2003	8・7	常総学院	桐生一高の菊池選手が第1日の第1試合でランニングホームランを打ち、夏の大会で甲子園球場の通算1000号を達成した。
90	2008	8・2	?	49代表に千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県、大阪府、兵庫県からは2校ずつの出場となり、全55代表で優勝を争う。



▶▶《2008年度の維持会員を募集中！》

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々にご利用いただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

1. 会員の特典

- (1)当博物館発行「ニュースレター」(季刊)送付します。
- (2)無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- (3)アメリカの野球博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
- (4)会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- (5)イベント情報などを優先的にご案内します。
- (6)博物館で販売している商品が10%引きになります。

*新個人会員には上記の特典のほか、3月に刊行した『野球殿堂 2007』を進呈します。

*新ジュニア会員には上記の特典のほか、「野球体育博物館オリジナルピンバッジ」を差し上げます。

2. 会員の種類と会費

年会費(4月～翌年3月迄)

個人会員	1口	1万円
法人会員	1口	10万円
ジュニア会員(小・中学生)		2,000円

3. ご入会の方法

①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。

「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。

②“入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ 博物館 業務部 高城・竹内

皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

博物館からのお知らせ

【理事会・評議員会】

平成20年度の理事会・評議員会を6月2日(月)午前11時より、東京ドームホテルにおいて開催、理事および監事、評議員の計47名(意見書出席含)の出席があり、次の議題について承認されました。



議題1 平成19年度の事業報告・決算報告・監査報告承認の件

【理事・評議員の交代】

新任 理事 島田 亨氏(楽天野球団代表取締役社長オーナー)
 評議員 奥島 孝康氏(日本学生野球協会副会長)
 評議員 田和 一浩氏(日本学生野球協会理事)

退任 理事 三木谷 浩史氏
 評議員 小林 正三郎氏

映画「ラストゲーム 最後の早慶戦」

(8月23日～全国ロードショー)

太平洋戦争中の1943年秋、学徒出陣を控えた早慶両校の野球部員たちの願う早慶戦が、多くの人々の尽力で実現するまでが感動的に描かれています。

(財)日本野球連盟、(財)全日本軟式野球連盟、(社)日本野球機構、(社)全国野球振興会などの推薦映画になっており、当博物館も、公式サイトやプログラム用に飛田 穂洲氏(1960年殿堂入り)の写真を出して協力しています。ぜひ、ご覧下さい。

公式HP <http://www.lastgame-movie.jp>

【計 報】

2005年に野球殿堂入りされました志村 正順氏が昨年12月1日に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時

10月1日～2月末日 AM10時～PM5時

(入館は閉館の30分前まで)

入館料 大 人 500円(300円) } ()は
 小・中学生 200円(150円) } 20名以上の団体
 65歳以上 300円

休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)

年末年始(12月29日～1月1日)

《8月・9月・10月の休館日》

9月 22日・29日 10月 6日・20日・27日

*9月21日まで無休です。

*10月1日より開館時間がAM10時～PM5時(入館は4時・30分前まで)となります。

● 編集後記

今年の野球殿堂入り表彰式は、8月1日と8月15日に分けて開催されます。今号では山本 浩二さん、堀内 恒夫さんの表彰式をお伝えしました。次号(10月25日発行予定)では、甲子園球場で行われる嶋 清一さんの表彰式の様子をお伝えします。

Newsletter Vol.18 / No.2

2008年8月10日発行

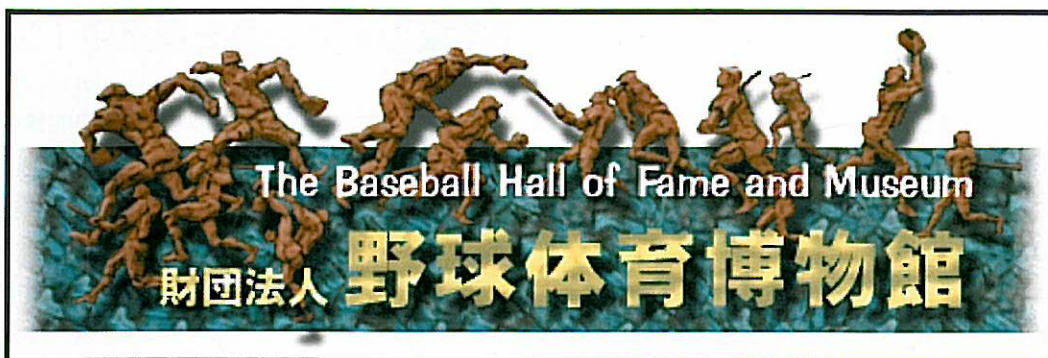
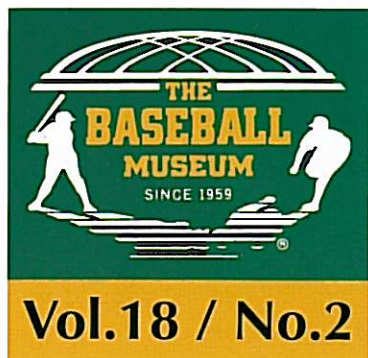
編集・発行 財団法人 野球体育博物館

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369

<http://www.baseball-museum.or.jp/>

定 価 100円



リレー随筆(33)

競技者表彰委員会幹事 新妻 千秋 (読売新聞社)

「まあ、これからは一阪神ファンに戻って、優勝を夢見て、楽しみますわ。」

いかにもこの人らしい退任のあいさつだった。別れの湿っぽさとは無縁に、いつものようにひょうひょうと、ちょっぴり皮肉をこめながら笑顔で去っていった。

野球体育博物館の理事長でもある根来 泰周コミッショナー代行が6月いっぱい退任した。振り返れば、歴代コミッショナーの中でも、根来氏ほど大きな事件、難局に見舞われたコミッショナーもいないだろう。

なにしろ就任前日の2004年1月31日に早くも事件が起きた。近鉄球団が突然、球団名を売却すると明らかにしたことが始まりだった。他球団の反対で、これはいったん収まるのだが、それはやがて押し寄せてくる大波の前兆にすぎず、以後、根来氏は世論を巻き込んだ球界再編という荒波にもまれ続けていくことになる。

近鉄とオリックスによる球団統合、これを発端とした楽天など新規参入球団の出現、現役学生への利益供与による有力オーナーの退任、そして史上初の選手会スト、さらには西武による裏金問題一。

代行職を含め4年にわたったコミッショナー在任期間は、日本プロ野球史の中でもまれに見る激動期だった。ただこうした出来事も、長年、赤字に苦しむ球団経営のあり方、選手会との対立、プロとアマの垣根、そして時代遅れの野球協約と、この何年か球界内にうごめいていた問題が一気に噴出したもので、起こるべくして起こったものと言える。

「わたしは理屈の世界で生きてきただけに、情がからむとどうもね…」。

一層の騒動を通して、根来氏が再三、口にした言葉だ。つまり野球界は理屈より感情が支配する世界だということだ。事態収拾にあたっては、検察官という法務官僚出身者らしく、とにかくプロ野球の憲法である野球協約を厳格に守り、公立中性であり続けた。それゆえに、外部からは「指導力がない」「何もしない」と見られ、マスコミの批判にさらされた。ただそれでも頑固に筋は通した。

「コミッショナーは協約を違反した場合に制裁を課す裁判機関。球団経営はオーナー会議などの専権事項。それに口出したのだから、辞めるべきと思った」。

選手会のストの際、自らの進退をかけて提示した収拾案が実らず、辞意を表明したのは法律家として、あるいはコミッショナーとしての矜持ではなかったか。わたし自身、球界再編を取材した者として、時には理屈より感情に走った部分が確かにあった。一番いい例が、あの混乱の中、新規参入を表明したライフドアや堀江被告を全マスコミが一斉に取り上げ(持ち上げ?)ながら、逮捕後、なんの検証もしないスポーツマスコミの責任は大きいはずだ。

根来氏はその後、代行職としてコミッショナーにとどまることになるが、そこからドラフト、フリーエージェント改革や協約改正など球界改革をはじめ、ドーピングやパウエル の二重契約問題など紛争事にも積極的に動くようになった。理由は「(代行職は)いつクビにされるか身分保障がない分、一歩も二歩も前に進め、動けるようになった」からである。

最後まで、けじめと筋を通し、根来氏は球界を去っていった。先日、お世話になったお礼も兼ね、「お酒でも」と誘ってみた。返ってきた言葉は「マスコミ批判は覚悟しとけよ」。頑固さは健在のようだ。